

令和8年3月11日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立東山中学校
校長 西田 友幸

令和7年度 目黒区立東山中学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 第1回実施日時 令和7年6月27日(金) 午後2時50分～午後3時30分

- ・学校経営方針
- ・今年度の取組

(2) 第2回実施日時 令和8年2月5日(木) 午後3時00分～午後3時40分

- ・今年の総括
- ・学校評価アンケート集計結果考察について

2 参加者 校長、副校長、評議員5名

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎学校の雰囲気の肯定的評価が保護者・地域ともに9割以上と向上した。学校ウェブサイトの毎日の発信が評価されると考えられる。 ●教職員の対応について、生徒の肯定的評価が9割後半に届いていない。 ◎保護者の肯定的評価が向上するも、生徒の肯定的評価は微減である。	・kind time を活用した生徒の個別対応を増やして、生徒一人一人の思いをつかみ、保護者とも共有していく。 ・コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会委員と連携して、校長の学校経営方針をより広く、分かりやすく広めていく。	・学校全体が落ち着いている。 ・多様な生徒を受け入れる土壌が出来ていることが強みである。
II 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について	◎教育目標の肯定的評価が保護者・地域ともに9割以上に向上。キーワード「つよく」「かしこく」「あたたかく」が浸透していると考えられ	・教育目標と学校経営方針が四者にとってより身近になる取組を行う。 ①情報発信(学校ウェブサイトとH&S)。 ②学年・学級経営への取	・教育目標に基づいて学校がどのような取組をして、どのような生徒を育てたいのかを引き続き発信してほしい。

	<p>る。教職員の肯定的評価が教育活動・教育目標ともに 100% を維持した。昨年度から続く研究の取組が浸透しているためと考えられる。</p> <p>●教育活動の肯定的評価が地域・生徒ともに減少した。地域と連携したボランティア活動の周知不足が考えられる。</p> <p>◎教育目標の肯定的評価は全体で向上するも、教育活動の肯定的評価の低下には対応が必要であると考ええる。</p>	<p>組(学校・学年だより)で取り扱う。</p>	
<p>Ⅲ 心の教育について</p> <p>・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について</p>	<p>◎心の教育の肯定的評価は生徒・保護者ともに向上した。</p> <p>●教職員は心の教育の肯定的評価が 100% だが、保護者の数値との乖離が課題。道徳授業地区公開講座を中心とした発信が弱いと考える。</p>	<p>・考え議論する道徳の授業を続けるとともに、学校・学校だより等で保護者や地域にむけて情報発信を行う。</p>	
<p>Ⅳ 学習指導等について</p> <p>・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、習熟度別指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について</p> <p>・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について</p>	<p>◎教職員の学習指導・情報端末活用の肯定的評価が大きく向上し、生徒の情報端末活用の肯定的評価は高水準を維持した。</p> <p>●保護者の学習指導・情報端末活用の肯定的評価がそれぞれ微減だった。生徒の学習指導評価も微減だ</p>	<p>・生徒のリテラシーをはぐくみ、情報端末を正しく活用出来るようにする。学活や道徳の時間で発達段階に応じた考える授業を実施する。</p> <p>・smart time で ICT を活用した学習計画と振り返り、他者参照を行うことで、自己調整</p>	<p>・生徒同士が学び合う雰囲気大切にしたい。</p> <p>・学習につまずいている生徒に対する具体的な手立てを示してほしい。</p> <p>・自分から相談に行けない生徒もいることを知っておいてほしい。</p>

	<p>った。</p> <p>◎教職員の評価は向上したが、保護者・生徒の満足度低下が課題である。アンケートで情報端末の学習面以外での使用の懸念が指摘されている。</p>	<p>力の育成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導と関連付けたリテラシー教育の推進を行う。 	
<p>V 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力向上、健康の促進に向けた取組について 	<p>◎生徒の肯定的評価が8割後半に向上。体育・健康教育の充実が評価された。教職員の肯定的評価は9割以上を維持している。</p> <p>●保護者・教職員の肯定的評価がそれぞれ微減だった。取り組みの効果が十分に伝わっていない。</p> <p>◎生徒の肯定的評価は向上したが、保護者評価の低下が課題である。体育・健康教育について具体的な改善策が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校の取組（めぐろここカラダシートの活用、保健体育の授業、出前授業）引き続き行い、情報発信していく。 保護者の願いを知るために、学校公開や運動会のアンケート項目に、「体力向上」「健康の促進」を取り入れる。 	
<p>VI 特別活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて 	<p>◎保護者・地域の肯定的評価がそれぞれ向上した。教職員の肯定評価は100%を維持し、学校行事の充実が評価された。</p> <p>●生徒の肯定的評価が低下した。異学年交流や部活動の満足度が課題と考える。</p> <p>◎地域・保護者の肯定的評価は向上したが、生徒の肯定的評価の低下の分析が必</p>	<ul style="list-style-type: none"> strong time の部長会を軸に、部活動の充実に取り組む。部長会で出た意見を参考に、部活動の在り方を検討していく。 コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会委員と連携して、学校行事の充実を図る。 	

	<p>要。活動内容の見直しや生徒の意見を反映させる手立てが必要だと考える。</p>		
<p>Ⅶ 学校生活全般について <生活指導> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて</p>	<p>◎保護者・生徒・地域の肯定的評価がそれぞれ向上した。生活指導や特別支援教育の取組が評価されたためと考える。</p> <p>●教職員の肯定的評価は微増したが、さらなる生活規律の徹底が必要である。</p> <p>◎全体的に評価は向上したが、いじめや不登校対応の継続的改善が課題である。生徒の主体性を育む取組の強化が必要であると考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東山ブランドの一つである「TPO をわかまえる」を生徒・教職員にさらに浸透させる。 ・ 特別支援教育の充実（東山ルーム、カインドルールの運用）を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内別室登校の支援員と先生方の連携を大切にしてほしい。 ・ 生徒に安心できる場所や人が見つけられるようにしてほしい。
<p><防災教育・安全指導> ・ 事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて</p>	<p>◎保護者の肯定的評価が安全教育・事件防止が向上した。教職員の肯定的評価は全体的に向上。生徒の肯定的評価は安全教育において微増した。</p> <p>●生徒の肯定的評価は高水準ではあるが、生徒がどれほど理解しているか分析する必要がある。</p> <p>◎全体的に評価は向上したが、情報モラル教育の充実と地域連携が課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救急救命講習の全学年実施を引き続き実施する。 ・ 情報モラル教育を充実させるために、セーフティ教室において家庭や地域と連携する場面を設定する。 	

<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<p>◎保護者・教職員の肯定的評価がそれぞれ向上した。小中連携の取り組みが保護者・教職員に高く評価されている。</p> <p>●小・中連携の具体的な効果を保護者や地域に広く共有する必要がある。</p> <p>◎評価は向上したが、連携の具体的な成果を生徒・地域に伝える工夫が必要である。連携活動の継続的な改善と広報強化が必要だと考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による小学校運動会でのボランティアや近隣幼稚園での実習を引き続き実施する。 ・学校ウェブサイトや学校・学年だよりで定期的に情報発信する。 	
<p>Ⅷ 情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信の充実について 	<p>◎教職員の肯定的評価は100%を維持している。情報発信の充実が高く評価されている。保護者の肯定的評価は9割以上と高水準を維持している。</p> <p>●地域の肯定的評価が微減だった。地域への情報発信の工夫が必要である。情報発信の効果を生徒視点で改善することも検討する。</p> <p>◎保護者の肯定的評価は安定しているが、地域の低下の分析が必要である。情報発信のタイミングを含む改善点を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ウェブサイトは教員による当番制で、毎日更新することが出来ている。今後も毎日の学校の様子を発信していく。行事では閲覧数が大きく増える。このことを活かして、学校経営方針が伝わるように工夫した内容にする。 ・コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会委員と連携して、学校の課題解決について協議し実行する。 	

<p>IX 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 	<ul style="list-style-type: none"> ◎令和 6 年度・令和 7 年度ともに教職員は 100%の肯定的評価を維持した。教員の人材育成が高く評価されている。専門性や協働性の育成、教育公務員としての自覚が十分に浸透している。 ●現状維持に満足せず、さらなる専門性向上や新たな課題への対応が求められる。100%の評価を維持するため、継続的な取り組みと改善が必要である。 ◎高評価を維持しているが、時代の変化に対応した人材育成の工夫が必要。教職員間の協働をさらに深め、より高い教育効果を目指すことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発学校として、教員全員が学校改善に取り組んでいる。特に授業改善の場面では、初任者からキャリアの長い者まで活発な協議が出来ているので引き続き実施していく。 	
<p>X 教員の働き方改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について 	<ul style="list-style-type: none"> ◎教職員の肯定的評価が向上した。働き方改革が大きく進展している。校務支援システムや業務分担が効果的に機能し、教職員に評価されている。 ●全ての教職員に業務効率化等の取組が行き届いていない可能性がある。業務分担やシステム活用のさらなる改善が必要な 	<ul style="list-style-type: none"> ・時差勤務や在宅勤務を適切に運用する。 ・kind time 内での会議や、積極的な有給休暇の取得を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育現場に合った働き方改革を進めてほしい。 ・働き方改革が先行しすぎて先生方が働きにくくならないようにしてほしい。

	<p>部分が残っている。</p> <p>◎働き方改革は成果を上げているが、全教職員が満足する環境整備が課題である。改革の進捗を継続し、個別の課題を解消する取り組みが求められる。</p>		
<p>XI サービス事故の防止について</p> <p>・サービス事故防止に向けた取組などについて</p>	<p>◎教職員の令和 7 年度の肯定的評価が 100%。サービス事故防止の取り組みが全教職員に評価されている。教職員全員がサービス事故防止の重要性を理解し、取り組みが浸透している。</p> <p>●今後も 100%の評価を維持するため、継続的な取り組みと意識向上が必要。実際の行動や意識が評価に伴っているか、定期的な確認が求められる。</p> <p>◎高評価を維持するため、具体的な事例や研修内容の充実が重要。教職員間での情報共有を強化し、サービス事故防止の徹底を図る必要がある。</p>	<p>・年間計画に基づいて、計画的なサービス事故防止を実施する。</p>	